北海道言語障害児教育研究協議会

２０２４年度　総 会 議 案

第１号議案	２０２３年度事業報告	ｐ２～ｐ８
第２号議案	２０２３年度決算報告・監査報告	ｐ１６
第３号議案	２０２４年度事業計画	ｐ８～ｐ１５
第４号議案	２０２４年度予算案	ｐ１７
第５号議案	会員提出議案	ｐ１５

〈 例年の総会議案の審議の流れは以下の通り 〉

３月　運営委員会研修会で「総会議案」を作成する。

４月　「総会議案」をホームページ上に掲載する。

各ブロックで討議し、理事が会員の意見を集約する。

５月　理事会で審議し、原案に修正を加え最終決定する。

審議の内容及び修正された部分を通信で会員に報告する。

※　２００７年度の会則改正により、会員に直接諮るべき議案がない場合は、理事会の決定をもって総会の決定に代えることができることとなりました。

第１号議案　２０２３年度事業報告

１．会 務 報 告

◆ 2023 年

3月	令和４年度道言協会計監査業務立会（札幌市立中央小学校、元町小学校）：松澤
4/6	道言協通信№275・総会議案・教室会員調査・実態調査など発行
4/22	第１回道言協理事会（札幌市立南月寒小学校・参集とZOOMのハイブリッド開催。）
5/14	全難言協第１回理事会（東京都世田谷区立駒澤小学校）
5/20	道親の会総会・代表者会議
5/21	道言協第１回運営委員会（札幌市立南月寒小学校・ハイブリッド開催）
6/2	道言協通信№276発行
6/22	岩見沢大会実行委員長表敬訪問（岩見沢市立中央小）：千葉会長、濱﨑
6/25	第１回組織部会（札幌市立南月寒小学校）
7/3	道言協通信№277発行
7/19～8/9	第144回臨床研修会（動画配信）：道親の会との共催事業
7/23	第１回研究部会（札幌市立南月寒小学校）
7/24	道言協岩見沢大会記念講演録画会（岩見沢市立中央小学校）
7/27～28	全難言協全国大会埼玉大会・全難言協第２回理事会（埼玉県さいたま市　ソニックシティ）：松澤北海道ブロック代表、濱﨑北海道理事
8/2	胆振教育局局長表敬訪問（室蘭市）：千葉会長、仲見苫小牧・白老大会実行委員長、小間開催地事務局長、濱﨑
8/11	第145回臨床研修会（言難ABC「ことばの教室の基礎・基本と実践」）（かでる２．７）
8/23	研究大会発表集録、会員教室一覧発行
8/23	道言協通信№278発行・北海道における言語障がい児教育の実態発行
9/22～10/9	道言協岩見沢大会オンデマンド配信
9/22～10/9	第146回臨床研修会オンデマンド配信
9/29	道言協第２回運営委員会（大会関連リモート会議）13時～14時
10/7	道言協岩見沢大会（１日日程）（岩見沢市立中央小学校）
11/12	第２回研究部会・第２回組織部会（札幌市立南月寒小学校）
11/25	道言協第３回運営委員会（札幌市立南月寒小学校）

◆ 2024 年

1/17	道言協通信№279・研究紀要発行
2/18	第３回研究部会・第３回組織部会（札幌市立南月寒小学校）
3/2	第４回運営委員会（札幌市立南月寒小学校）

2. 研 究 部 の 活 動 報 告

（１）研究推進計画の提案と推進

・理事会研修会（4/22）

・運営委員会（5/21・9/29・11/25・3/2）

（2）研究大会の計画・運営・反省

・理事会研修会にて岩見沢大会の内容について提案。（4/22）

・道言協通信№２７４にて千歳大会の反省案を提案。（2023/1/17）

（3）研修会の計画と運営

・第１４４回言語障害臨床研修会　2023/7/19（水）～8/9（水）

共　催：ＮＰＯ法人ことばを育てる親の会北海道協議会

内　容：ＹｏｕＴｕｂｅを活用したオンライン研修

「初心のいっぽ、もういっぽ　子どもが真ん中の指導－ことばの教室が培う専門性－」

講　師：西田　立郎 先生

会　費：会員０円　保護者０円　会員外１０００円

参加者：１６９名（会員１２７名、保護者２８名、会員外１４名）

・第１４５回言語障害臨床研修会「言難ＡＢＣ」　2023/8/11（金）　かでる２．７にて

内　容：「ことばの教室の基礎・基本と実践」

講　師：池田　寛 先生　髙川　康 先生

会　費：会員１０００円　会員外２０００円

参加者：３６名（会員３４名　会員外２名）

・第１４６回全道大会時臨床研修会　　2023/9/22（金）～10/9（月）

内　容：ＹｏｕＴｕｂｅを活用したオンライン研修

「作業療法士の目から見た、子どものことばとこころ、からだの発達」

講　師：池田　千紗 先生

会　費：会員１８００円　会員外２２００円　配信のみ１０００円（全道大会参加費に同じ）

申込者：３２２名（配信のみ１３０名）

・第１４７回　ブロック臨床研修会

希望するブロックに講師を派遣し、研修会を行う予定だったが、希望の地域がなかった。

内容等は、今後も希望するブロックに対応していきたい。

（4）研究部研修会の開催

第１回研究部会研修会　「今年度の研修会について」大会・臨床研修会細案検討（2023/7/23）

第２回研究部会研修会　「研修会の反省と次年度の言難ABCの在り方について」　（2023/11/12）

第３回研究部会研修会　「活動反省と次年度の計画」大会・臨床研修会について（2024/2/18）

3. 組織部の活動報告

（１）「２０２３度版　北海道における言語障がい児教育の実態」の発行（2023.８.23）

北海道の言語障害児教育に関わる諸問題について、継続して実態を調査し、結果をまとめて発行した。道内の教室、機関の実態について会員相互の理解を深めた。会員へ調査用紙を配布する際は例年通りホームページで公開するといった完全電子化で行い、質問項目も簡略化した。また、記入の締切時期を２週間遅らせることで、会員が答えやすいように工夫した。

（２）研究大会における全体会の企画

運営委員会からの情報提供は紙面報告とし、今回も昨年に引き続き「研究主題と研修・実践のつながり」というテーマで実施した。全体会は昨年同様、動画配信という形で会員の皆様に視聴していただいた。2022年度に行った「『研究主題や研究の柱と実践の結びつきについて』のアンケート」の結果から会員の声を取り上げつつ、会員からの協力者を募り、「『心の育ち』座談会」を開催した。その中で、研究主題資料の具体的活用や事例発表経験を交流する中で、現在の研究主題「ことばを支える『心の育ち』を大切にした支援のあり方を考える」の良さを確認し、道言協が大切にしていることを広く呼びかけることができたと捉え、概ね目標は達成できたと思われる。

今後とも会員のみなさんにとって意義ある全体会にしていきたいと考えている。

（３）組織部会研修会の開催

第１回組織部会研修会　（2023.６.25）

実態調査の集計及び編集、研究大会全体会の検討　他

第２回組織部会研修会　（2023.11.12）

実態調査の方法等の見直し、研究大会全体会の反省と今後の方向性の検討　他

第３回組織部会研修会　（2024.２.18）

実態調査の方法等の見直し、研究大会全体会について、組織の見直しについての検討　他

4. 広報部の活動報告

（１）道言協ホームページの充実と活用

・昨年度に引き続き、必要な情報を随時ＨＰに掲載し、理事を通して閲覧を呼びかけた。ＨＰ係を中心として、通信や大会要項、研修案内等、迅速に必要な情報を掲載することができた。

（２）「道言協通信」の発行・「総会議案」の発行

・４月６日「総会議案」を発行した。

・岩見沢大会が一日目は配信、二日目は会同して実施されたため、通信の発行は年に５回とした。道言協通信がＨＰに掲載された際には、理事を通して会員に通知し閲覧を呼びかけた。

〇通信２７５号：2023年４月６日発行　・理事会研修会の主な検討事項・年間計画案・運営委員会構成・調査と原稿のお願い・会費納入依頼・研修会案内 等

〇通信２７６号：2023年６月２日発行　・理事会研修会の報告・役員一覧・会費納入依頼・臨床研案内 等

〇通信２７７号：2023年７月３日発行　・岩見沢大会連絡・ブロック活動紹介・臨床研修会等案内 等

〇通信２７８号：2023年８月23日発行　・岩見沢大会諸連絡・討議の柱（案）・臨床研案内 等

〇通信２７９号：2024年１月17日発行　・会長メッセージ・大会反省・臨床研報告案内・研究紀要発行報告・会費納入依頼 等

（３）「研究大会発表集録」（８/23）と「研究紀要（大会記録集）」（１/17）を発行。

・発表者、記録者、分科会協力員の皆さんの協力で、計画通り発行できた。

・大会集録の発送は、道言協会員分を発送係（札幌）で、道言協会員外の参加者と贈呈分（後援依頼先・大会講師・臨床研講師・コーディネーター等）を大会開催地で行った。

（４）原稿印刷と発送業務

・上記（２）（３）の他、会員教室一覧、北海道における言語障がい児教育の実態等の発送物を計画通り発送した。メール便での発送を基本とし、送料と内容物によっては郵便を利用した。

5. 庶務部の活動報告

（１）文書作成業務　～　運営委員会研修会（４回）、組織部会研修会（３回）、研究部会研修会（３回）などの派遣依頼の作成と発送。

（２）文書の保管　～　各種文書の整理、保管、保存文書の製本作業。

（３）会員の把握　～　教室会員調査をもとに、発送用住所ラベル、会員教室一覧原稿、会員教室一覧を作成。

（４）会計業務　～　予算案・決算案の作成。会費の徴収、領収書の発行。旅費の支給。物品の購入と各種の支払い。会計台帳の作成。

6. ２０２３年度　総括

（１）研究大会

〇第56回道言協岩見沢大会を一日日程で開催しました。

〇講演会はノートルダム清心女子大学准教授青山新吾先生。10分科会が開かれ、事例研究10分科会でした。

2023年度の研究大会は開催地事務局である岩見沢市ことばの教室（岩見沢市立中央小学校）を中心に開催されました。開会式、全体会、大会記念講演をオンデマンドによる動画配信とし、視聴期間は９月22日（金）から10月９日（月）でした。そして、分科会が４年ぶりの参集形式で岩見沢市立中央小学校を会場にして、10月７日（土）に一日日程で開催しました。

今回の大会は322名（配信のみ130名、分科会192名）の参加があり、当会の研究主題のもと、10分科会の構成により、レポートが発表されました。「発表者を大切にする」姿勢を基本に、レポートをもとに参加者全員で討議の柱に沿った活発な協議が行われました。さらにコーディネーターからレポート発表に対して専門的な助言をいただき、参加者全員の学びを深めました。

大会全体会では、テーマを２か年計画で「研究主題と研修・実践のつながり」として、今回は２年次の発表を行いました。今回の発表は研究主題や柱と実践の結びつきについて、会員からのアンケートを通して考察し、さらに会員の生の声を通して研究主題への向き合い方を考えるきっかけとなるよう提言されました。

記念講演会はノートルダム清心女子大学より青山新吾先生をお迎えして、「エピソード語りから考える『一緒に歩む』の意味」というテーマでお話していただきました。『一緒』の意味を、通じ合っていると感じる間主観性についての説明の中でふれられていました。その人らしさを徹底的に大切にし、人と人がともに生きる語りを探る、間主観性を基盤としたエピソード語りで自分自身を見つめながら進むことを先生は大切にしているそうです。まさにことばを支える「心の育ち」を大切にした支援を模索している我々の関わり方について示唆に富む講演をしていただいたと考えます。

10分科会の内訳は、事例研究が10分科会でした。ことばやきこえに心配がある子ども達の理解と支援について、表面の心配だけにとらわれず多面的に捉えて、必要な支援をしている様子が報告され、「ことばを支える『心の育ち』」という観点からより子どもの姿を深く捉え、よりよい支援に結びつけていくためのレポート発表、協議、さらにはコーディネーターからの助言がなされました。

この場をお借りいたしまして大会準備・運営にご尽力いただいた開催地の皆様、各方面の関係者の方々に深く感謝を申し上げます。

（２）臨床研修会

〇臨床研修会は年に４回の計画を立てています。コロナウイルスが５類に移行し、対面での研修も増えてきましたが、道言協の会員は道内各地におり、移動などの負担を考え、動画配信の研修会も取り入れています。経験の浅い先生方を対象にした臨床研修会「言難ＡＢＣ」、各地域へ出向いての事例検討会などは、対面の研修を企画しました。

第１４４回言語障害臨床研修会は、ことばを育てる親の会との共同開催で動画配信を行いました。言語聴覚士の西田立郎先生を講師に、『初心のいっぽ、もういっぽ　子どもが真ん中の指導－ことばの教室が培う専門性－』と題した講座を開催しました。指導を進める上で大切なことに加え、保護者との関わりや、担任の先生との連携の在り方についてもていねいに説明してくださり、新しくこの仕事をされた先生だけではなく、長く携わっている先生方にも多くの示唆をいただける内容でした。

第１４５回言語障害臨床研修会「言難ＡＢＣ」は、かでる２・７を会場とし、ＯＢの池田寛先生、女満別小学校の髙川康先生を講師として参集の形で行いました。前半は「ことばの教室基礎・基本」と題し、池田寛先生から指導を進めていく上で大事なポイントについて事例を通して説明していただき、後半は、髙川康先生にアドバイスをもらいながら、グループに分かれて、ケース検討を行いました。指導についての基本的な考え方を学び、ケースについて話し合うことで、より実践的な学びができました。

第１４６回大会時臨床研修会は、北海道教育大学の池田千紗先生による「作業療法士の目からみた、子どものことばとこころ、からだの発達」という講座を開催しました。作業療法士の視点で子どもの発達をどう捉えるかを知ることができ、いろいろな立場の人が協力していく大切さについても知ることができました。

第１４７回臨床研修会（ブロックへ講師派遣）については、希望する地域がありませんでした。次年度以降、通信等での啓発に力を入れていきたいです。

2024年度におきましては、会員の皆様の要望に添った内容の研修となるようオンライン研修などを含め、可能な形での実施を計画しております。

（３）研究計画の検討

〇現在の研究主題が日々の実践にどのように浸透してきているか、検証しながら実践を。

研究主題を「ことばを支える『心の育ち』を大切にした支援のあり方を考える」としてから５年以上が経過しました。今年度は交流しながらの研究を進めることを徐々に復活させた一年となりました。コロナ禍の研修では、道言協としてオンラインを有効活用した研修会を行ってきました。「繰り返し視聴し学習を深められる」「遠方の会員も参加しやすい」というメリットがあり、オンデマンドによる録画配信の研修会も引き続き企画してきました。しかし、道言協運営委員で企画する研修には限界があり、各ブロック内の研修に頼るところであります。昨年度に引き続き、ブロックごとに事例研究ができるところは検討会を行ったり、オンラインが使用できるところではそれを利用した研修会を行ったりしていると聞いています。今後も身近でできることから、確実に研修を進めていくことが必要であり、そのためにもブロックの力は大きいと感じています。

なお、道言協ではＨＰ上でいくつかの資料を配付しています。あわせて大会全体会動画、講師の許可を得た臨床研修会動画などはアーカイブで会員にいつでも視聴できます。今年度も『研究主題の説明資料』は、会員の皆さまのニーズに合わせて補強していきたいと考え、必要に応じて検討しているところです。私たちが日常子どもをどのように捉え、どのように指導を構成し、省察し、また次の指導を組み立てていくか、という、「支援の思考過程」に沿って書くレポート作成の例も掲載しています。今後もより良い資料となるよう作成したいと考えています。お気付きのことがありましたら、是非ともご意見を各ブロック理事を通してお寄せください。

また、ＨＰでは道言協以外の各種研修会などもお知らせしています。ＨＰや道言協の資料をご活用ください。

（４）これからの通級問題・幼児問題（地域に根ざした教室作り）の取り組み

〇ニーズが大きくなっている通級指導に、道言協で培ってきた専門性を生かすことができます。

〇「基礎定数化」「高校通級」「巡回指導」など新しい動きにも注目し、情報交流していく必要があります。

特殊教育が特別支援教育へと転換してから、この教育に関する様々な指導方法の研究もなされてきました。その中で、発達障がいにかかわる通級教室も急増し、「通級指導」そのもののニーズや、教育界における「通級指導」の役割がとても大きなものとなってきたと感じます。

本協議会は、言語の状態だけにとらわれず、常に一人の子どもを、一人の人として「多面的・総合的」に捉え、「子ども理解」を深め、その時々に必要な支援を考えてきた歴史があります。乳幼児期からの子どもの発達や成長を長い目で見て、通級の果たす役割を考えてきています。また、単に指導内容の研究だけでなく、制度や教室の実態についても調査・研究を進めてきました。今後はより一層、道言協が設立以来50年かけて培ってきた言語障がいを切り口とした「通級指導についての専門性」「通級指導の運営方法」のノウハウを生かし、関係の方々と連携して指導を進めていければと考えます。

平成29年度からは「通級指導教室担当者の基礎定数化への移行」が、平成30年度からは「高校の通級指導」がスタートしました。また、近年は「巡回指導」が導入されている地域・教室が増えております。担当者配置の問題や勤務形態の問題、専門性の維持・継承、幼・小・中そして高の間の連携、関係機関とのより一層の協力…といった様々な課題を、地域の実情にあった役割を担いながら「地域に根ざした教室作り」をすすめていきたいと思います。現在もまだコロナ禍の中で思うように研修会が行えない状況が続いております。各ブロック・各教室においても、可能な範囲で各地域の教育委員会や教育センター、また親の会等との連携をしていき、他の研究団体などとのつながりも維持していただければと思います。

各ブロックの取組や研修体制を交流できるような実態調査を目指し、冊子や動画を通して交流でき、必要に応じて運営委員会と各ブロックの理事・事務局長とで連絡を取り合い、地域の特長を生かした教室運営を進めていけるよう情報提供をしていきたいと考えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

（５）情報の電子化

〇感染症対策の意識をもちながら、ＨＰのいっそうの充実を目指します。

〇（６）とも関連して、効率の向上のために電子メール・デジタルデータなどの利用を進めます。

今後ＨＰでの情報提供や電子メールそのほかでの検討や情報共有といったやりとりはますます多くなってくると考えられます。2023年度は感染対策を引き続き意識しながら、参集を基本とし、Ｚｏｏｍも併用しての打ち合わせをしましたが、2020年度、2021年度のように、参集しての打ち合わせが難しい状況が起こることは2024年度も予測しなくてはなりません。さらに年度途中で思いもかけない予定変更を余儀なくされることが出てきます。その際に多くの方に情報が行き渡るように情報の電子化を引き続き工夫したいと考えます。

ＨＰの閲覧がしにくい環境にある方もいらっしゃるかもしれませんが、情報の保障、業務のスリム化を進める上でもデジタルデータの活用は欠かせません。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（６）運営組織の再構築

〇基本的な流れは、年１回の理事会・４回の運営委員会・年３回の組織部会及び研究部会という構成になっています。

〇会にご支援ご指導いただいている多くの方々とかかわりを深め、会のあり方や今後についてご示唆いただきたいと考えます。

道言協では、研究・組織・広報・庶務の４部13係で業務を分担し、３～４人の事務局次長による調整のもと、各部各係を中心として運営を進めてきています。特別支援教育の変遷や、各地域の実情に合わせてそのときどきで運営しやすく効率のよい組織のあり方を模索してきました。

2018年からは年２回だった理事会を年１回とし、運営委員会・発送作業も１回削減しました。2023年度は感染症対策を意識しつつ、予定通りの活動ができました。各ブロックでは地域の実情に応じて、オンデマンドを併用するなどして、活動を進めていると推察します。その中で、疑問や新しい提案などがでましたら、ぜひお知らせいただきたいと思います。会員の皆様のお声を伺いながら、年間予定の組み直しや更なる工夫、精選に取り組んでいきたいと考えています。

2024年度全道大会苫小牧・白老大会は白老町立白老小学校を事務局として準備を進めています。苫小牧・白老大会開催にあたり、開催地事務局及び日胆ブロックの皆様は感染症対策や会員の参加しやすい大会開催のあり方を模索してくださり、大会１日目を動画配信、２日目の分科会を参集による開催で考えてくださり、準備を進めています。

また運営組織に関しては、どの地区も活動の人手不足に悩む中、以前よりも研究部・組織部へ部員を増員して派遣していただいています。複数担当者が居ることにより、引継ぎがスムーズになっています。この組織に長く関わってくださっている方々の力をお借りしながら、今後中心となっていく方たちへスムーズに継承していけるような体制作りは、継続的に考えていかなければなりません。これからもご協力よろしくお願いいたします。

第２号議案　２０２３年度　決算報告・監査報告

⇒　１６ページに掲載

第３号議案　２０２４年度　事 業 計 画

１．基 本 方 針

〇北海道における言語障害児の教育及び療育を充実させるために、研究組織を確立して会員間の連帯を図り、会員個々が専門職としての意識をもって研究及び研修に努め、実態調査や地域との連携に取り組み、地域に根ざした信頼される教室・センター作りを目指します。

※　なお、2019年度末からの感染拡大防止対策を踏まえつつ、運営委員の業務の負担軽減のため、いくつかの活動を縮小・オンデマンド開催しております。このため今年度も以下の通り、例年と違った動きとなります。状況をご賢察の上、ご理解ご協力いただければと思います。

〇春の理事会研修会を参集を基本とし、オンライン参加も可能として開催します。

理事会は重要な議決機関であると共に、広い北海道で同じ仕事に携わる仲間達の、互いの状況を知る情報交流の場でもあります。2019年度より感染防止対策として中止を余儀なくされていましたが、この状況が落ち着き、集まることが徐々に可能になってきた状況です。それらを踏まえた理事会の在り方の検討が引き続き必要となっています。よって、前回（前年度）の開催方法を参考にして、試行的に上記の形式で開催を予定してみました。今年度も情報交流と研修の場の確保のために理事会研修会の在り方を検討したいと考えています。

〇第５７回道言協苫小牧・白老大会を１日日程の参集で開催します。（詳細はＨＰ・通信280号をご覧ください。）

道言協苫小牧・白老大会は、９月２日から10月７日（予定）までは従来の大会１日目の内容を動画配信で行います。そして９月27日を大会当日として、苫小牧市民会館を分科会会場にして参集での開催となります。なお、大会に関わる内容の検討が主となる第１回運営委員会は５月18日に開催する予定です。

〇ＮＰＯ法人ことばを育てる親の会北海道協議会との共催研修会（例年７月～８月配信予定）を、今年度も動画配信の共催研修会を予定しております。すでに前年度の道言協岩見沢大会に参加していただいた国立特別支援教育総合研究所の谷戸諒太先生に内諾をいただいています。講義内容は谷戸先生と道言協研究部で打ち合わせ中です。詳細が決まりましたら、道言協通信や道言協ＨＰでお知らせします。

〇言難ＡＢＣは７月29日（月）開催予定です。今年度も１日日程ではありますが、参集での開催を予定しております。前年度に引き続き、感染防止を徹底した参集での開催を検討しております。併せて講師陣は運営委員を中心に人材の確保、各講義の内容の継承などについても検討していきます。研修会の質が維持向上されるように努めていきたいと考えています。

〇参集しての活動を基本とするので、会費は会則通り（4,000円）であることを提案いたします。今年度も参集しての活動を可能な限り行っていきます。また並行して動画配信、オンライン開催による活動も企画しております。また全道大会開催に伴い、研究集録・紀要の作成、会員への発送を行う予定です。

予想される今年度の活動は以下の通りです。

・通信の発行（３～４回）　・教室一覧の発行　・ＨＰによる情報提供

・実態調査の発行 ※会員の皆さまのご意見を反映し、調査記入の時期を大幅に変更します。よって、今年度は調査のみで発行は次年度となります。

・感染対策を講じての臨床研修会（参集しての開催、参集と録画動画配信のハイブリッド開催、オンライン開催を含む）

・運営委員会／組織部会／研究部会は例年通りの回数に戻しつつ、参集と一部オンラインによるハイブリッド形式で実施予定

・理事会研修会（参集を基本とし、オンライン参加も可能とする。）

そのほか、次年度以降の大会開催地への挨拶の費用、事務局関係の費用、ＨＰ運営費用などはあまり大きく変わらないものと思われます。

オンラインや動画配信による活動は維持しつつ、参集での開催を昨年よりも増えることで、研修会等の開催回数は例年と変わらなく、費用がかかることが予想されます。さらに通信費が昨年度と同程度になり、参集しての活動を順次再開するので、理事会や運営委員への旅費が昨年度よりも増えることが予想されます。

これらのことを鑑み、予算案では従来の会費の金額である、4,000円として計上しました。是非ご了承いただきたいと思います。

2. 研 究 部 の 計 画

１．これまでの研究の経過

道言協のこれまでの研究のあゆみについては、４月に発行した「研究主題の説明資料」の13～16ページに記載していますので、再度ご確認ください。

２．今年度の研究・研修の進め方

2023年度は、４年ぶりに参集形式（一部動画配信を含む）で岩見沢大会を行いました。参加者アンケートでは、研究主題「ことばを育てる『心の育ち』を大切にした支援のあり方」にかかわり、「ことばと心の成長は密接だと改めて感じ、今後も意識して指導にあたりたい。」などの意見が多数寄せられました。改めて、心の育ちがことばの発達と密接に関わっていることを実感し、現在の研究の方向性を肯定的に受け止めておられる方が多いことが分かりました。引き続き、ことばの発達の基本的な考え方に立ち返り、道言協が大切にしてきたことを継承させるべく、現在の研究主題を深めていくことが必要ではないかと考えます。

2024年度の研究については、昨年度に引き続き下記の研究主題、柱を提案します。

研究主題（案）「ことばを支える『心の育ち』を大切にした支援のあり方を考える」

研究の柱（案）

１ その子をどのように理解していくか。 →子どもの実態把握

２ その子にとっての問題をどのようにおさえ、問題の発生と経過をどうとらえるか。→子ども理解の仮説

３ その子にとっての必要な育ちとは何か。どのようにかかわり支援するか。 →支援の計画と実際

４ 支援の経過をどのように振り返り、関係者と情報共有するか。 →支援の省察と共有

各研究の柱の意図は以下の通りです。

（１）「その子どものどこをどのように観て、理解していくのか」「その子どもを担当者はどんな姿勢で理解していくのか」ということを考えます。「ことば」「聞こえ」という側面だけでなく、多面的な視点で総合的に子どもを観て、支援の方向付けにつなげていきます。

（２）その子どもの困っていることや保護者の心配が「どのように発生したか」の筋道を考えます。実態把握で得た情報を基に、「その子どもにとっての問題」を明らかにし、その子がどのような育ちの中で現在の状態に至ったのかの要因を探り、仮説を立てながら理解を深めていきます。

（３）これまでにとらえた「その子どもにとっての問題」とその子どもの「育ち」、その中の「問題が発生してきた背景」の理解を基に、どう子どもと保護者を支えていくかを考えていきます。また、「今、その子に必要な支援は何か」を常に考えながら支援に当たります。

（４）事例を中心とした研究を進めるために、担当者が指導過程での自分の実践の考えや思いを丁寧に振り返り、省みて（＝省察）いきます。個人の記録で、周りの担当者との交流で、教室研修やブロック研修で、大会発表でと、様々な機会を利用して省察・共有し、研究を進めていきたいと考えます。

・研究主題の意図を会員が理解しやすいように、「研究主題の説明資料」を年度初めに発行します。

・道言協の基本的な研究のスタイルは、「事例研究」です。教室内のケース会議や近隣の教室とのケース会議を行ったり、ブロック研究会で事例研究を行ったりするなど、様々な機会を使って積極的に事例研究を行います。ブロックの理事さんは積極的に研究の情報交流を行いましょう。このほか、「事例研究」以外の「実践」や「教室運営」にかかわる研究にも積極的に取り組みましょう。

・2024年度は、第５７回苫小牧・白老大会が開催されます。昨年度の第５６回岩見沢大会においても各分科会で研究主題を意識したレポートが多くみられました。今年度は現在の研究主題になってから10年目を迎えますが、定着してきた研究主題をもとに、引き続き、日頃の研究の成果や課題を大会に持ち寄り、研究討議を行いたいと考えます。発表者の方には研究主題に基づくレポートの作成、発表をお願いするとともに、経験の浅い担当者も積極的に発表していただけたらと思います。

・経験の浅い担当者や一人担当教室の担当者を対象とした研修を、引き続き最重要課題として取り組んでいきます。また、平日の研修会への参加が難しい会員にとって参加しやすい、オンラインや長期休業中の研修を予定しています。

・各ブロックにおいても、ブロック内あるいは近隣のブロックと協力して基礎的な研修の機会を作るように取り組んでください。

・公的な研修会や他団体の研修会の情報について、道言協通信を通して会員にお知らせしていきます。

３．第５７回北海道言語障害児教育研究大会 苫小牧・白老大会

期 日：２０２４年9月２７日（金）

会 場：苫小牧市民会館（苫小牧市旭町１丁目７番10号）　TEL：0144-32-6232

・開会式、記念講演、全体会、臨床研修会については動画配信、分科会については会場にて対面で実施いたします。レポートは全道から募ることとし、午前に分科会Ａを、午後に分科会Ｂを設置します。

・分科会では、研究主題に基づく事例検討をする「事例研究分科会」、教室運営上の諸問題を検討する「教室運営分科会」、様々な実践を交流する「実践報告分科会」を設置します。12 分科会程度を予定しています。レポート発表者は、３つの中から、発表内容に合う分科会を選び報告します。

・分科会Ａ、分科会Ｂともにコーディネーターをお願いしたいと思います。司会のエキスパートとして討議づくりをしていただくとともに、必要に応じて専門的な助言をしていただいています。

・分科会のコーディネーターの決定や分科会の調整は、運営委員会で行います。

・分科会運営を円滑に行うため、「分科会運営の手引き」及び「分科会協議の柱（案）」を発行します。

・分科会種別、発表本数と発表時間、１本当たりの討議時間、ブロック割り当て数は以下の通りです。

分科会種別	発表本数と発表時間	１本当たりの討議時間	ブロック割り当て数
事例研究分科	１本―２５分	約１２０分	１本以上
教室運営分科会	１本―２５分	約１２０分	自由
実践報告分科会	１本―２５分	約１２０分	自由

・事例研究分科会の発表レポート作成に当たっては、「研究主題の説明資料（Ｐ５～６）」を参考にしてください。また、分科会への参加に当たっては、「分科会運営の手引き」を参考にしてください。

４．研修会の計画

（１）２０２４年度の研修計画

①研修の機会を確保するため、動画配信での研修会を開催します。（７月～８月）

ことばを育てる親の会との共催を予定しています。

②基礎的な内容の研修会「言難ＡＢＣ」については、対面での実施を予定しています。

③全道大会開会前の午前中に行っていた臨床研修会は、動画配信とすることを予定しています。

④例年ブロックから希望を募って行っていた事例研修会については、今後も希望する各ブロックに対応していきます。

（2）９次研修計画

新たに９次として、言語発達、構音障害、吃音、きこえ、体の動きや不器用さ、愛着障害、学習障害、ギフテッド、アセスメント、保護者との連携といったいろいろな課題についての研修を計画していきます。

２０２４（令和６）年度　【第９次１カ年目】

第１４８回言語障害臨床研修会（親の会と共催かどうかは、５月親の会総会以降決定）

・期日　　７月～８月
・会場　　動画配信
・講師　　谷戸　諒太氏（国立特別支援教育総合研究所　主任研究員）
・内容　　子どものことばの発達と大人のかかわり

第１４９回臨床研修会「言難ＡＢＣ」※２年サイクルで４つの障害について触れます。

・期日　　７月　29日　月曜日
・会場　　かでる２・７
・内容　　ことばの教室の基礎・基本と実践　吃音・きこえ編

大会時臨床研修会（第１５０回）

・期日　　９月から配信（全道大会開催前に配信予定）
・会場　　動画配信
・講師　　片桐　正敏先生（北海道教育大学旭川校　教授）（内諾）
・内容　　ギフテッドについての理解と支援

第１５１回言語障害臨床研修会

・各ブロックの要望に対し、研究部を中心に協力。研修の時期について、以前は秋・冬としていたが、今年度については時期を指定しないこととする。（研修の希望があればご連絡ください。）

（3）ブロック間の交流

会員の研修機会を増やすために、各ブロックで行っている研修会・研究会案内を道言協ＨＰで紹介し、他ブロック会員が参加・交流できるようにしていく（各ブロックで、他地区からの参加受け入れが可能な場合は、研修会案内を道言協研究部研修係までお知らせください）。

（4）研修情報の提供

公的な研修会や他団体の研究大会や研修会の案内、報告を道言協通信によって会員に周知する。

（5）研究部会研修会の開催

夏季休業中と冬季休業中を中心に年３回の研究部会研修会を開催する。

3. 組 織 部 の 計 画

（１）「２０２４年度版　北海道における言語障がい児教育の実態」の発行

※組織部で業務内容の見直し（会員の声を大切に、調査の依頼や回収は年度初めの繁忙期を避ける）を行った結果、以下の日程で今年度は進めていきたい。

〇目的　・教室運営上の諸問題に関する実態を明らかにし、内部の資料とすること。
　　・関係者に実態を把握してもらうための資料とする。

〇ＨＰ上での公開とし、データでの配布・集約とする。

２０２４年　７月　調査用データＨＰ掲載　　８月下旬　理事からデータ送付
　　９月　集計作業
　　１１月　編集作業
２０２５年　２月　次年度（２０２５年度）に向けた調査項目の検討
　　４月　調査項目のＥｘｃｅｌ反映作業・内容確認
　　６月　印刷・製本発注（２０２４年度版）
　　７月　２０２５年度調査用データＨＰ掲載
　　８月　発行
　　（２０２４年度版　北海道における言語障がい児教育の実態）

（２）研究大会における全体会の企画

趣　旨

様々な課題や現状を交流する場、あるいは必要な共通理解をする場が全体会であると意義づけた。全体会で得られたものがブロックの活性化につながったり、会員の頑張りを支えたりすると思われる。それは、最終的には子どもがよりよい教育を受けること、言難教育の専門性を高めるということにつながっていくであろうと考えた。

〇２０２４年度から、各ブロック理事（代表者）による発表形式となる。
　テーマは「会員同士のつながり（研修・情報交流）」
　４月　理事会で提案　　５月　運営委員会で進捗状況確認　　６月　内容検討
　11月　反省と次年度の計画　　１月　次年度の計画　　３月　次年度内容の決定

（３）組織部会研修会の開催

第１回組織部会研修会　（２０２４．６月下旬予定）
　実態調査の確認、研究大会全体会の検討　他
第２回組織部会研修会　（２０２４．11月中旬予定）
　実態調査の集計及び編集について、研究大会全体会の反省と方向性の検討　他
第３回組織部会研修会　（２０２５．２月中旬予定）
　今年度の反省と次年度に向けた実態調査の項目等の見直し、研究大会全体会の反省と方向性の検討、組織の見直し　他

4. 広 報 部 の 計 画

（１）道言協ホームページ（ＨＰ）の運営

・道言協の活動内容が必要時に閲覧でき、活動内容の変更や連絡がすぐに確認できるよう、ＨＰ係を中心に必要な情報を随時ＨＰに掲載し、理事を通して閲覧を呼びかける。

（２）「道言協通信」「総会議案」の発行

・各部から原稿を集約し「総会議案」を発行する。（４月５日発行予定）

・通信の内容を整理し、発行を年に４回とする。発行予定は以下の通りだが、発行時期や内容は状況に応じて変更する。道言協通信がＨＰに掲載されたことは理事を通して会員に通知し、閲覧を呼びかける。

〇通信２８０号：2024年４月５日発行　・理事会研修会の主な検討事項・年間計画案・運営委員会構成・会員調査・会費納入・研修会案内 等

〇通信２８１号：2024年６月18日発行　・理事会研修会の報告・会費納入依頼・研修会・臨床研案内・苫小牧・白老大会連絡 等

〇通信２８２号：2024年８月23日発行　・苫小牧・白老大会諸連絡・協議の柱（案）・大会臨床研について・ブロック活動紹介・研修会案内 等

〇通信２８３号：2025年１月17日発行　・会長メッセージ・大会反省・臨床研まとめ・会費納入依頼 等

（３）「研究大会発表集録」と「研究紀要（大会記録集）」を発行する。

・研究集録に事例研究レポート（原則として４ページ）と教室運営・実践報告レポート（原則として２ページまたは４ページ）を掲載し大会前に会員に配付する。

・集録は、道言協会員分は発送係、その他必要分は開催地が発送する。発送状況を可能な限りＨＰでお知らせする。

・研究紀要の分科会記録は概要形式（Ａ４版１枚）にし、記念講演録は講演資料（もしくは要旨）の掲載とする。分科会記録は記録者が中心となり概要をまとめ、発表者、コーディネーターの了解のもと、広報部に送付してもらう。

（４）事務局との連絡を密にし、計画的に発送業務にあたる。

5. 庶 務 部 の 計 画

（１）文書作成業務

・理事会研修会、運営委員会研修会、部会研修会、事務局研修会の派遣依頼の作成と発送。（文書係）

・大会関係の講師・コーディネーターへの派遣依頼・お礼文の作成と発送。（文書係）

（２）文書の保管

・各種文書の整理、保管、保存文書の製本作業。（文書係）

（３）会員の把握

・「教室会員調査」の記載内容から発送ラベルを作成する。（会員係）

・「会員教室一覧」を発行する。（会員係）
・Ａ４版の規格とし、１頁に12～14教室を掲載する。会員の住所、電話番号は掲載しない。
・末尾に「個人会員一覧」を綴じ込む。
・「ブロック組織図」は各理事に原稿を依頼し、会員教室一覧の中に綴じ込んで発行。
・４月「教室会員調査」についてＨＰに掲載、理事より集約、８月下旬頃発行。

※2024年度に向けて変更したいこと

これまで、通称名と認可名称名の両方を記入する欄がありましたが、実態調査の中で認可区分や設置形態などがあると思うので、会員調査では連絡を取り合う際に必要な、教室名などのいわゆる「通称名」なのではと考え、削除しても良いのではないかと考えました。

そうすることにより、会員調査がシート２枚でしたが、１枚に収めることが可能になり、会員調査での記入漏れの改善に繋がり、また業務のスリム化だけでなく印刷経費の削減にもつながるのではと思います。

（４）会計業務

・予算案・決算案の作成。会費の徴収、領収書の発行。旅費の支給。物品の購入と各種の支払い。会計台帳の作成。（会計係）

※2024年度よりお願いしたいこと

〇現在、会計業務のスリム化を図っており、更には2024年度秋に、郵送費の大幅値上げが予定されております。このことを踏まえて、以下のことをご提案します。

・請求書は、会長印の捺印が必要な学校のみお送りしたい。様式などはＨＰに公開しているので、印がなくてもよい場合はそちらを参考にしていただきたい。
・会費徴収については送金手数料などでご負担をかけることになり申し訳ないが、原則振り込みとしたい。これに伴い、領収書も市町村等からの支払いを受けている関係で必要な場合のみお送りし、それ以外の方は「振込金受取書（振込明細書）」「送金元口座の記帳」等で替えさせていただきたい。

第４号議案　２０２４年度予算案

⇒　予算書は１７ページに掲載

第５号議案　会員提出議案

※　議案を提出される会員は、４月11日（木）までに提案内容を事務局にお知らせください。追って会員に提案します。

第2号議案　　2023年度決算・監査報告

2023年度決算報告

Ⅰ．収入の部

項目	2023年度予算	2023年度決算	決算－予算	適用
繰越金	212,577	212,577	0	
会費	1,600,000	1,768,000	168,000	4000円×442口（＋42口）
補助金	30,000	40,000	10,000	北海道ことばを育てる親の会より共催研修費を含む
年度当初準備金	300,000	273,430	-26,570	研修会場費26,570円を前年度中に支払い済のため
その他	7,423	60,005	52,582	利息5円・全難言協より5000円・臨床研参加費41000円・R4年度未納分会費14000円
合計	2,150,000	2,354,012	204,012	

Ⅱ．支出の部

項目	2023年度予算	2023年度決算	決算－予算	適用
会議費	570,000	565,994	-4,006	
運営委員会	250,000	260,467	10,467	運営委員会3回/組織部会3回/研究部会3回
理事会	150,000	102,430	-47,570	
大会運営委員会	50,000	39,327	-10,673	岩見沢市・胆振管内訪問
全難言協	100,000	149,820	49,820	理事会・埼玉大会
事務局会議	20,000	13,950	-6,050	
事務費	230,000	199,715	-30,285	
通信費	150,000	160,704	10,704	
事務局費	80,000	39,011	-40,989	事務局長交通費 関係者への礼物 他団体への参加費 硬貨手数料など
事業費	950,000	860,260	-89,740	
本年度大会	150,000	150,000	0	
大会準備金	121,000	60,385	-60,615	R6年日胆大会分
研究集録	181,000	173,910	-7,090	
研究紀要	160,000	152,240	-7,760	
実態調査	150,000	150,700	700	
会員教室一覧	68,000	69,520	1,520	
研修推進事業	120,000	103,505	-16,495	
予備費	100,000	18,284	-81,716	
次年度準備金	300,000	300,000	0	
合計	2,150,000	1,944,253	-205,747	

Ⅲ．残高

2,354,012-1,944,253＝409,759

残高　409,759円　を次年度に繰り越す。

＜特別会計（特別事業積立金）＞

前年度繰越金	653,132	円
収入の部（利子）	6	円
差引残高	653,138	円

＜監査報告＞

収入・支出とも帳簿に記載の通り、間違いなく適正に執行されていることを認めます。

2024年　3 月 28 日　　監査　　札幌市立元町小学校長　　東原恵蔵

2024年　3 月 26 日　　監査　　札幌市立真駒内桜山小学校長　　小田英人

第4号議案　　2024年度　予算案

Ⅰ．収入の部　　A　　B

項目	2023年度予算	2024年度予算	B－A	適用
繰越金	212,577	409,759	197,182	
会費	1,600,000	1,600,000	0	4000×400口
補助金	30,000	40,000	10,000	北海道ことばを育てる親の会北海道協議会より
年度当初準備金	300,000	177,719	-122,281	(基準の額は例年300,000円) 研修会場費24,870円、全国大会参加準備費用97,411円を支払済のため
臨床研修会参加費	【新設】	30,000	30,000	臨床研参加費
その他	7,423	2,522	-4,901	
合計	**2,150,000**	**2,260,000**	**80,000**	

Ⅱ．支出の部　　A　　B

項目	2023年度予算	2023年度決算	2024年度予算	B－A	適用
会議費	570,000	565,994	**720,000**	**150,000**	
運営委員会	250,000	260,467	270,000	20,000	運営委員会3回/組織部会3回/研究部会3回
理事会	150,000	102,430	150,000	0	理事会1回開催
大会運営委員会	50,000	39,327	100,000	50,000	R6日胆大会R7渡島桧山大会
全難言協	100,000	149,820	180,000	80,000	理事会・全国(沖縄)大会
事務局会議	20,000	13,950	20,000	0	
事務費	230,000	199,715	**230,000**	**0**	
通信費	150,000	160,704	160,000	10,000	郵送/宅配代、HP運営費用など
事務局費	80,000	39,011	70,000	-10,000	事務局長交通費 関係者への礼物 他団体への参加費など
事業費	950,000	860,260	**967,000**	**17,000**	
本年分大会費	150,000	150,000	150,000	0	R6日胆大会
大会準備金	121,000	60,385	121,000	0	R7渡島桧山大会　R8札幌大会
研究集録	181,000	173,910	181,000	0	
研究紀要	160,000	152,240	160,000	0	
実態調査	150,000	150,700	155,000	5,000	
会員教室一覧	68,000	69,520	70,000	2,000	
研修推進事業	120,000	103,505	130,000	10,000	臨床研運営費用など
予備費	100,000	18,284	**43,000**	**-57,000**	
次年度準備金	300,000	300,000	**300,000**	**0**	
合計	2,150,000	1,944,253	2,260,000	110,000	